

今月のテーマ 学生が育つまち

田上市長の ホッとトーク

～自らの思いを皆さんに語るコラム～



大学生のころ、いろいろなアルバイトをしました。引越、食堂の皿洗い、花屋さん、駐車場の整理、お寺の修理、クラブのウェイター…。それは生活費を稼ぐだけでなく、社会の一端に関わるとても貴重な体験になりました。今でいうインターンシップの役目を果たしてくれたような気がします。

ただ、ふるさとでないまちの大学だったこともあって、「地域」に関わるという経験はあまりありませんでした。

* * *

長崎には、大学生と地域を結び仕組みとして「U・サポ」があります。大学生が登録をしておいて、地域からの求めに応じていろいろな活動をする仕組みです。

夏まつり、子どもたちのキャンプ、高齢者への食事提供…参加できる活動はさまざま。地域にとっても助かる仕組みですが、学生にとっても貴重な経験ができます。初めての体験やいろいろな人との出会いは、必ず学生を育ててくれます。長崎大学の「やってみようでスグ」から始めて、今では6つの大学と1つの短大に広がったこの仕組みが、学生

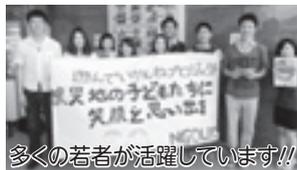
と地域の関係をより豊かなものにする「長崎システム」として発展してほしいと願っています。

* * *

「長崎で遊んでいかなね!!プロジェクト」という活動があります。夏休みに東北の被災地から子どもたちを呼ぶ活動です。募金活動、企業への協力依頼、子どもたちのお世話…手作りの企画なので、実現にはとても大きなエネルギーが必要ですが、

今年で三年目ですが、市内の大学生や若い社会人たちが集まって企画し、多くの人が協力をお願いしながら企画を実現していくのを見てみると、私の学生時代には持っていなかった頼もしさを感じます。そしてよく見ると、この活動の中で若い社会人が学生をリードしたり、多くの企業がこの活動を応援していることがわかります。

もう一つご紹介しましょう。「ナガサキ・ユース代表団」は今年の春、長崎大学と県、市でつ



多くの若者が活躍しています!!

くる核兵器廃絶長崎連絡協議会が募集して結成されたチームです。今年の春、ジュネーブで開かれた核不拡散条約(NPT)再検討会議準備委員会に参加しました。慣れない土地で、ワークショップを主催したり、要人との会談に参加したり、全力で活動しました。私も数日間一緒に行動しましたが、メンバーが一日一日成長する様子を見てみると、体験こそが栄養であることを改めて感じました。

* * *

「U・サポ」「長崎で遊んでいかなね!!プロジェクト」「ナガサキ・ユース代表団」に共通するのは、学生・若者と地域との関係です。

こういった活動が広がり、増えていくことで、長崎は学生にとって、栄養豊かなまちになっていくことでしょう。これからも大学、地域、企業、行政がそれぞれの力を発揮して、「大学時代を過ごすなら長崎で」といわれるまちを目指したいと思います。



ワークショップの様子



周辺地図



自然の川は、深い所もあるのでご注意ください



自然の木々に囲まれた絶景の中で川遊び

今回は、私たち「ホテル」が鹿尾川をご紹介。市の中心部からバスで約20分。土井首バス停で下車すると、目の前の川が鹿尾川です。

そこから上流へ約15分歩くと、私たちが住んでいる所があります。この水は、とてもきれいで、手長エビや、サワガニ、カワムツ、アユなど、たくさんの仲間と一緒に暮らしています。

今の季節は、子どもたちが遊びに来てくれて、一緒に泳いだり、鬼ごっこをしたりして遊んでいます。

また、地元の人が川の環境保全に取り組んでくれるので、私たちが安心して生活しています。

この夏、家族や仲間と一緒に、私たちの所に遊びに来てみませんか。周辺には、駐車場がないので、公共交通機関を利用して来てくださいね。

出かけて見る・知るまちのオススメスポット

ながさき
フチ旅行

遠出しない絶景の避暑地
鹿尾川